

令和6年度 第 2回 広沢小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和6年6月17日(月)13時00分から15時00分
- 2 開催場所 広沢小学校1階 開放教室
- 3 出席委員 杉浦 友治 平野 圭吾 山田 谷一
川上 玲子 橋本 憲幸 橋本かずよ
佐々木 知成 加藤 いずみ(学校支援コーディネーター)
- 4 欠席委員 宮本 慶子
- 5 オブザーバー 石田 博基(西部協働センター所長)
- 6 学校 澤田 強志(校長) 鈴木 俊彰(教頭) 中村 敦(主幹)
渥美 彰三(CS担当職員) 石川 由美(CSディレクター)
- 7 教育委員会 鈴木 陽子(教育総務課)
- 8 傍聴者 6名(広沢小学校職員)
- 9 会議録作成者 CSディレクター 石川 由美
- 10 議長の選出について

司会の鈴木から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉浦会長から加藤委員を議長に推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 「広沢小学校いじめ防止基本方針」について
- (2) 地域人材によるクラブ活動の取り組みについて
- (3) 学校評価アンケートの項目の検討について

12 会議記録

司会の鈴木から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 「広沢小学校いじめ防止基本方針」について

議長の指示により、生徒指導主任の渥美から、別紙資料に基づき「広沢小学校いじめ防止基本方針」についての説明があり、委員からは、地域や家庭の役割について以下の発言があった。

- 今日ちょうど中学校は保護者がいじめアンケートを提出する日だった。娘にいじめを受けたことがあるか、周りで誰かいじめられている子はいないかを確認すると、嫌なことを言われたことはあるが、それを先生に報告するまでもないと話した。そういうことを受け流せる子とそうでない子がいると思う。耐えられないいじめは口にできず、大したことではないことは言うのかなと多感期の子を持つ親として感じた。家庭の役割ということで、自分一人で解決できないことは支えになっていきたいと思う。(加藤委員)
- 幼稚園ではいじめという言葉ではなく、いじわるになる。いじわるといじめの違いがどこかで発生する。小学校低学年になると、誰々から意地悪をされたではなく、いじめられたに変わっていくのではないかなと思う。もしかすると広沢小の5、6年生ならば、パワハラとかセクハラという言い方をするかもしれない。家で良い子は外でいじわるだったりすることがある。一概には言えないが。親が気付かないこともあるかもしれない。これを学校がやらなくてはならないのは大変だと思う。(橋本憲幸委員)

- 地域の見守り隊をもっと増やしていきたい。挨拶運動を積極的に行いながら、困っている子がいたら、声掛けもしていけたらいいと思う。(平野委員)
 - 15年前に地域で子育てをしていこうと話したことがあった。自分たちの子供も大きくなり、小学生ではなくなると子ども会にも入っていないので、名前も分からなくなる。なかなか声掛けが難しい状況にある。(加藤委員)
 - だいぶ前に広沢小の近くに、はっきりと注意をしてくれるおじさんがいた。僕らの時代は、子供たちの様子を見守ってくださっていた方がいた。他人が見ているという抑止力になっていた。お祭りの行事に出てくる子供も減ってきてしまっているのではなかなか難しいが、見たとき、感じたときには最低限の声掛けをしていかなければいけないと思う。(佐々木委員)
 - いじめ防止については、地域の人に知ってもらうために発信ができていないのではないかと。運営協議会の方たちなどはいじめに対してこのような取組がされていることを知っているが、一般の地域住民は地域と家庭の連携や学校との連携をどういうふうにしていったらいいのかと疑問を持っている方が多い。こういう事例などがあつたら学校に連絡くださいとか子供たちのトラブルを目撃した際には学校へ連絡くださいという案内があればもっと関わりやすい。(川上委員)
 - 前回の学校だよりに運営協議会のことを載せていただいて、地域で共有できた。今回のいじめ対策についても学校便りの「くすのき」で知らせていただくと有難い。HPでも確認できるかもしれないが、紙媒体だととても助かる。(山田委員)
 - 大昔は子ども会に200人ほどいた。今の子は習い事が多すぎる。もう少し子供に自由を。(杉浦会長)
 - 地域に見守られたいのであれば、地域に関わらないといけな。い。(加藤委員)
 - 以前、幼稚園で、運動会の運営などをお手伝いしてくださっているPTA役員に暴言を吐いた人がいた。後日、お手紙で対応をした。安全安心を守るために嚮をつけて「見守り隊」という活動をしているということを学校からも発信していただきたい。回覧も活用したら地域の人たちの理解を得られるのではないかと。(橋本憲幸委員)
- 協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(2) 地域人材によるクラブ活動の取り組みについて

議長の指示により、教頭から、地域人材によるクラブ活動の取組について説明があつた。また、国立教育政策研究所の資料に基づき、クラブ活動の目的をみんなで共有し、クラブ活動へ地域の方に御協力いただくことで、クラブ活動の充実を図っていききたいとの説明があつた。委員からは以下の発言があつた。

- 娘もとても楽しみにしていた。(橋本かずよ委員)
- よい取組であるので、年に3回は少し寂しい。(石田センター長)
- 昔は月一回クラブ活動が行われた。運動クラブで定年されている方たちに御指導をいただいた。子供たちはもっとやりたいと言っていた。(佐々木委員)
- クラブ活動の費用は・・・夢やらまいか、お花代は学校の市費(石田委員)
- 生産者も地域と関わりたいので、地域振興課で何かできるのでは(佐々木委員)
- 廃棄してしまうお花を活用できるのでは(加藤委員)
- どのクラブ活動も本格的だった。年に3回なのに、本格的に指導してもらっていて活動しているのが楽しそうだった。(平野委員)
- 生け花を通して、学習していた。(加藤委員)
- クラブ活動の指導者に偏りが見られた。もう少し声掛けをすれば、指導者は募れるはず。昔は小学校と中学校合同で静大の先生が指導してくれた。(佐々木委員)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 学校評価アンケートの項目の検討について

主な変更点として、本年度の学校運営方針の重点である広沢っ子宣言3「かいけつする力(課題対応能力)」の項目において、変更があるので熟議と承認をいただきたい。これについて、委員から以下の発言があった。

- 広沢小は宿題がなくなったのかと話題になった。何を目標にしたらのいいのか分からない。上の子の時は百人一首を覚えたり、国語の教科書を暗唱していたりした。子供だし、やらなくていいものはやらないのではないか。熱心な親は目標を掲げるだろうが、共働きの親はほったらかしになってしまうだろう。おそらく夏の三者面談では多くの意見が飛び交うであろう。夏休み後の成績が下がってから、夏休みにもっと課題をやらせればよかったと思うかもしれない。親も不安である。(加藤委員)
- 自分の子は塾には通っていないので、興味のあるものを伸ばしたい。将来どうしたいのかと考える時間を親子でもつようになった。今の勉強よりも、興味があるものや将来のことを考えられるようになったのはこういう宿題のおかげ。(平野委員)
- 毎日コツコツやることがなくなった。(加藤委員)
- 主体性というところから、宿題を自分で計画を立てるとするのはなかなか難しい。子供たちに宿題を与えるということは、ある程度小さい子供たちには環境を整えるということになるかもしれない。(橋本憲幸委員)
- はばたきには毎日宿題がある。娘は書き取りが苦手で、書き取りに5, 6時間かかることもある。そういう子には宿題が個人によって違うのはいいのではないか。(橋本かずよ委員)
- 今年度は、一斉授業からの脱却を図り、子どものニーズに応じた個別最適な学びの実現と協働的な学びを効果的に取り入れた授業の推進に全職員で取り組んでいる。さらには、家庭学習の在り方も見直し、子供が主体的に取り組むことができるよう家庭にも周知しているところだ。それが、子供の課題適応能力を育てることにつながると考えている。簡単なことではないが時間を掛けて、じっくりと取り組んでいきたい。その取組に対する評価として、アンケート項目の内容も変えている。(澤田校長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

- 加藤委員から見守り隊情報交換会、読み聞かせボランティアの活動について説明があった。
- 教頭より以下の報告及び連絡があった。
 - ・ 次回の熟議内容の確認
 - ・ 学校行事への参観について

司会から、次回会議は、令和6年10月16日(水)13:00～15:30開放教室で開催する旨の報告があった。